

## おわりに

本研究レポートでは「ブックスタートがもたらすもの」について検討した。

第1部での分析からは、赤ちゃん絵本をひらくことが、単に赤ちゃんの成長や発達に役立ったり、短期的な視点から捉えられる「効果」のようなものを生み出すだけではないことが分かった。

「絵本のひととき」は、「赤ちゃんとの関係を育む過程を豊かなもの」にし、子育ての日常に「様々な喜び」を生み出し、ときには保護者にとって「子育ての助け」ともなっていることが推測された。また赤ちゃん自身にとっては、「絵本のひととき」そのものが大きな喜びであり、「誰かと分かり合う」という体験が、共同性を育む機会にもなっていると考えられた。さらに誰かといっしょに絵本をひらく時間は、家族という枠や世代を超えて「受け継がれる」ことがあり、ともに絵本をひらいた者同士が「いっしょに生きていた証し」としても捉えられていることが分かった。

第2部のアンケート調査結果の分析からは、ブックスタートが、対象となった各家庭において、絵本のひとときを持ち始める具体的なきっかけとなったことが推測された。

ブックスタートを受けた家庭では、読みきかせを開始した時期が、ブックスタートが実施された時期とほぼ重なっており、ブックスタートで受け取った絵本を活用している(していた)とする回答が多かった。また自由記述欄の分析からは、ブックスタートの会場で赤ちゃんが絵本をひらく様子を見たり、その楽しさを体験したりすることや、その時の赤ちゃんの様子をどのように解釈するかということが、ブックスタートが絵本のひとときを持つきっかけになるかどうかに関わっていることが分かった。さらに家庭で絵本のひとときを持つにあたっては、子育ての日常における「時間的なゆとり」や「精神的な余裕」といった生活環境的な要素も大きな影響を及ぼすことが推測された。

第1部では、「絵本のひととき」が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に豊かな成果をもたらしうることを明らかにした。また第2部でのアンケート調査の結果の分析からは、ブックスタートの対象となった多くの家庭において、ブックスタートが絵本のひとときを持つきっかけとして機能したと推測された。この2段階の分析から、ブックスタートによって、より多くの家庭で「絵本のひととき」による豊かな成果が享受されている可能性が示された。

第3部では「ブックスタートがそれを実施する市区町村自治体や関係者にもたらすもの」について分析し、その結果を対象別に「地域の子育て環境」「母子保健事業」「活動に携わる人々」としてまとめた。

ここでは自治体を単位として行われるブックスタートが、直接活動の対象となる赤ちゃんや保護者だけではなく、それを実施する市区町村自治体や活動に携わる人々に対しても様々な肯定的な変化をもたらしている可能性を見出すことができた。

ブックスタートを実施する地域では、行政の複数の機関や市民ボランティアが連携することで、地域の子育て環境を考える枠組みが作られ、赤ちゃんや保護者の幸せを願う人々の力強くあたたかいつながりが生まれていた。また、活動が地域に生まれたすべての赤ちゃんを対象とし、保護者と向き合い個別のアプローチをしていくことから、地域の母子保健事業がさらに充実する可能性があることも分かった。さらに活動に携わる人々は、赤ちゃんや保護者との出会いや関係者との関わりを通して新たな学びを得たり、活動に協力することに生きがいや喜びを感じていることが分かった。

ブックスタートがすべての赤ちゃんの周りに届けたいと願う「絵本のひととき」から生まれるものが、「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」にもたらされることは、小さな赤ちゃんとその家族が言葉を交わし、気持ちを通わせることでお互いを知り合い、一緒に過ごす幸せな時間を生み出しているのではないだろうか。そして、赤ちゃんが家族の中で、さらには社会で人々とともに幸せに生きていく力を付けることの助けにもなるのではないかと考えられる。

また、ブックスタートを実施する市区町村自治体や関係者にもたらされた肯定的な変化からは、その地域で赤ちゃんが健やかに成長し、保護者が安心して子育てができ、さらにそこに住む人々の幸せにもつながるような、大きな循環が生まれていることも推測された。ブックスタートが読書推進、子育て支援という枠に留まらず、まちづくりの活動としても捉えられる背景にはこうした状況があり、活動は今後も各地でそうした広がりも含みつつ発展していくのではないかと考えられる。

もちろんブックスタートによって、対象となった多くの家庭に絵本のひとときを持つきっかけが届けられたとしても、それだけで今回明らかにしたことが将来にわたって実現し続けるわけではないだろう。

第1部で事例に対する考察を加えていただいた佐々木宏子教授は「ブックスタートが赤ちゃんのすべてを決定づけるわけでも、すべての課題を解決できるわけでもないでしょう。赤ちゃんとの“絵本のひととき”やそれが実現する家庭環境は、時間的に限定されたものです。“ある時点までは幸せな時代があった”という土台の上に、その後のその子の成長があるのです。」と語る。子どもの成長とともに家族がどのような関係を築くのか、そして保護者が子どもの選択をどのように支えるのかを繰り返し考える子育ての時間において、赤ちゃん時代の「絵本のひととき」は、いつでも立ち戻ることのできる幸せのひとつのかたちとして記憶されるのではないだろうか。

このことは地域についても同じことが言えるのかもしれない。ブックスタートを実施するだけで、地域の子育て環境が良くなるわけではない。活動に関わる人々や住民が、ブックスタートをひとつのきっかけとして、赤ちゃんや子どもにとっての幸せについて考え、自分たちの地域にどのような環境を作り出したいのかを考え、それぞれの地域に根ざした取り組みへとつなげていくことに大きな意味があるのではないだろうか。

NPOブックスタートでも、本研究レポートで明らかになったことを元に、実施自治体への情報提供の内容やあり方にさらに工夫をこらし、今後も支援活動の

充実を図っていきたい。

最後に本研究レポートを作成するにあたり、子どもとの絵本のひとときの大切な思い出を記録し、事例として提供してくださった保護者の方々、ブックスタート実施自治体でアンケート調査に協力してくださった保護者の方々、アンケート調査を引き受け、その実施に協力してくださった自治体関係者の方々、全国各地でブックスタートに携わり、活動内容や活動を通して考え感じたことを話し共有してくださった関係者の方々に深く御礼申し上げる。

本研究レポートが、地域の活動の充実と継続に役立つことができれば幸いである。またブックスタートに注目してくださる方々の関心に応え、活動がより多くの共感と支持を集めることにつながればと願っている。